

農繁期

レポート

令和2年 6月号

エースファーム

オーナー	株式会社エース
水田面積	20.1アール
保証量	玄米 905kg
形態品種	特別栽培コシヒカリ



生産者 高橋 秀紀さん

今年は例年に比べ、分けつが遅れているように感じています。その為、中干しに入るのを少し遅くして、6月27日から始めました。ただ梅雨に入ってから、雨の日が続き、田んぼも思うように乾いてくれません。梅雨明けが待ち遠しいです。

6月の作業内容と稲の成長

1. 草刈り

稲作期間中、1水田あたり複数回草刈りをします。雑草は害虫の寝床になり、稲が病気にかかってしまうからです。強い薬を撒いてしまえば草など生えてきませんが、それはお米にも影響を与えるため極力使わないようにしています。



2. 除草剤まき

水田周りは草刈り機で対応しますが水田の中は除草剤を使って対応します。全水田を手作業で草取りをすると草の成長が早すぎて間に合いません。減農薬(特別)栽培と言っているのはこういう箇所です。



3. 水の管理

日南町のように昼夜の寒暖差が激しい地域では水によって稲を保温させています。稲が生長していく初期過程では気温よりも水温が大きく影響するためです。肥料の吸収も水を通して行われるため、撒く日は天気予報見て判断します。



稲の分けつ(分けつ)

田植えをしてから稲はどんどん茎が増えていくことで生長します。これを分けつと言い、茎が20本前後になるまで続きます。ただ増やせばよいのではなく、適正数を超えてしまうと稲に悪影響を及ぼすため、途中で生長を強制的に止めます。

